

消 息

浅田宗伯生誕一七五年記念祭についての報告

一九九〇年、平成二年五月二十日(日)、順天堂大学有山記念講堂において、日本医史学会、日本東洋医学会、東亜医学協会の共催で、浅田宗伯生誕一七五年記念祭が催された。

浅田宗伯翁について、趣意書を引用して紹介してみよう。

浅田宗伯翁は幕末より明治中期にわたり、衆に秀れた大臨床医として我が国の漢方医界に燦然と輝やく不滅の大業績を残しました。その学殖の深さは八〇種二〇〇余巻と言われる著作に何われ、とりわけ「勿誤薬室方函」「勿誤薬室方函口訳」「傷寒論識」「雑病論識」「橘窓書影」「古方薬議」は今日も漢方研究者の必読の書とされている。(中略)

今日、日本の漢方復興の導火線となった宗伯翁に感謝するというのが本記念祭の趣旨である。

実行委員会が結成され、その会長に矢数道明先生、委員長に長谷川弥人先生、委員には大塚恭男先生、酒井シヅ先生はじめ一六名の方がそれぞれ就任した。

当日午前中、矢数、長谷川、山田光胤、大塚、木村伸輔の各先生が谷中霊園の浅田宗伯翁墓前に参拝された。

式次第は次の通りである。

開会の辞

矢数道明

記念講演(午後一時四〇分〜四時)

一 奥田多門と浅田宗伯その他

矢数道明

二 浅田宗伯先生門人指導の方針

長谷川弥人

三 浅田流漢方について

坂口弘

閉会の辞

長谷川弥人

司会

大塚恭男

講演の内容については『漢方の臨床』誌三七巻九号、浅田宗伯一七五年記念特集号を参考にされたい。

会場には木村博昭先生を祖父、木村長久先生を父にもつ木村伸輔氏所蔵の浅田宗伯翁肖像をはじめとして、宗伯翁自筆の掛軸二三点、巻物など七点、著書二八点、関連史料・書籍一二点、合計七〇点を展示し、参会者の参考に供した。個人所蔵者の快諾を得て、多数の資料を一堂に集めることができたのは、このような機会がなければ、不可能であろう。

講演終了後、有山記念会館地下食堂において懇親会が開催された。

本記念祭は生誕一七五年というやや変則的な形で行われた。

当初、平成二年一月、長谷川弥人先生、山田先生、大塚先生、私(菊谷)が山の上ホテルにて古医書の席が始まる前に、長谷川先生より、今年生誕一七五年祭を催すようおすすぬめがあったから

である。

長谷川先生のお話では生誕一〇〇年祭は行われなかったという。没後一〇〇年祭はあと三年であるが、先生はその時元気に参加できないかもしれないといわれた。矢数先生も長谷川先生の御意見に同意され、そこで、筆者が先生の命を受けて、日本東洋医学学会に共催の同意を、同じく大塚先生が医史学会の共催の同意をそれぞれとり、最終的に日本医史学会、日本東洋医学学会、東亜医学協会の三団体の共催となったのである。

なお、申し上げるまでもなく、長谷川弥人先生は浅田宗伯直門の木村済生塾に学んだ唯一の現存者である。また先生は浅田宗伯著作集研究の第一人者である。

本記念祭を開催するに当り、会場および懇親会のお世話をいただいた順天堂大学医史学研究室の酒井シヅ先生、蔵方宏昌先生、事務担当者に、また会場設営陳列に御尽力いただいた大貫進、小曾戸洋、真柳誠の各先生、また事務一切を担当された土屋伊薩雄氏に深甚の謝意を表する。

(菊谷 豊彦)

蘭学の巨星 杉田玄白・緒方洪庵展

「蘭学の巨星 杉田玄白・緒方洪庵展」は一九九〇年五月二一日(月)から二六日(土)にかけて、丸善・東京日本橋店四階ギャラリーAで開かれた。主催は蘭学資料研究会(略称は蘭研)、後援は国立国会図書館、適塾記念会、緒方医学化学研究所、協賛

は丸善である。

蘭研会長の故緒方富雄氏(一九八九年三月三一日死去)の一周忌にあたり、本展覧会が催された。緒方会長は、生前、曾祖父の緒方洪庵および、杉田玄白の関係史料を収集され、その多くが、緒方医学化学研究所に収蔵されていた。今回の展示は、緒方医学化学研究所からの出品の他に、個人、法人の方からの出品によるものである。

出品者は、個人では、緒方惟之、緒方正美、緒方洪章、堀内淳一の諸氏、法人は、日本学士院、国立国会図書館、適塾記念会、研医学会図書館、日本医学文化保存会、順天堂大学図書館、緒方医学化学研究所である。

展示は、「杉田玄白と弟子たちの遺品」として玄白の遺墨・書簡・著書、弟子達の遺墨(杉田成卿、桂川甫賢、坪井信道、宇田川榕菴たちの書画)が一つのコーナーとなっている。また、「シーボルト関係」として国立国会図書館の史料が展示された。さらに、蘭学時代の「辞書」のコーナーが設けられた。これらが展示の一つの柱である。

もう一方の柱は「緒方洪庵」関係の展示である。洪庵、夫人の肖像、洪庵の著作、訳述の医学書を中心とした刊本、稿本類、洪庵の書簡、日記、和歌、歌稿集。さらに、適塾関係史料が展示された。

本展覧会では、出品目録(解説)のパンフレットがつくられ、見学者には、無料で配布された。実行委員は、蘭研会員の有志であり、杉本 勲氏が代表となり、石山 洋、片桐一男、酒井シヅ、